

平成26年9月29日（月）

特別支援教育保護者研修会

臨床心理士から見た お子さんの発達と親の関わりについて

江別市子ども発達支援センター
臨床心理士 乙井 有利



今日のおはなし

①基本のおはなし

発達のゆっくりさ、でこぼこって？

②お子さんへの対応

どう接したらいいの？

こころとからだの発達を支えるということ
生きる力を育てること

③いろいろなひとに育ちを支えてもらうこと (福祉サービスなどの活用) について



発達ゆっくりさ、でこぼこって？

発達とは・・・

子どもと環境が相互に関わり合いながら
時間の経過とともに変化する過程



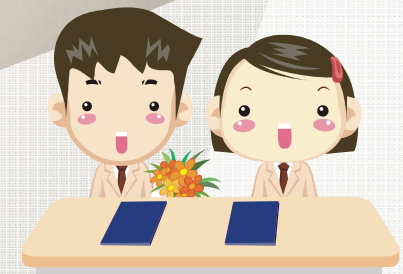
子ども自信が伸びようとする力（自発性）をもって、子どもを取り巻く環境から様々なものを取り込み、調整し自分のものにしていく過程のこと。



つまり・・・

発達とは、自分と環境とのかかわりの中で自己を調整していくこと。

そして、その中で、
自分の体や思考を柔軟に適応することができる
ようになること。



例えば・・・

トンネルをくぐる

自分がトンネルをくぐる時のことを想像してみてください・・・しゃがんで、頭を下げて・・・
⇒自分がどの程度かがむとトンネルにぶつからずにくぐることができるか、このときの体を動かし調整すること

定型発達と発達の“でこぼこ”

このような環境との調整の中で、様々な思考や運動を獲得していことができる

⇒いわゆる定型発達

しかし、何かの要因でこの環境との調整が上手くいかない状態にあるとしたら…

子どもの発達に“でこぼこ”があるかも



発達障がってどんなもの？

発達障害者支援法において、「発達障害」は「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」と定義されています。

(発達障害情報センターより)

社会的には・・・

- ◎ 発達のでこぼこ（かたより）が大きくて、
そのために、社会生活での過ごしにくさが生
じる状態。



発達障がいの診断について

多く取り入れられている基準は

DSM－V という診断基準

（アメリカ精神医学会が考えたもの）

→定期的に改定され、環境、文化、その中で変わりうる人の発達状況などを考慮し、時代に沿った診断基準へと変化していく。

広汎性発達障がい(PDD)って？

DSM－Ⅴでは、名称が変更になり、

自閉症スペクトラム障害
(ASD)

と呼ばれるようになった。

《自閉症の例》

急に予定が変わったり、初めての場所に行くと不安になり動けなくなることがよくあります。そんな時、周りの人が促すと余計に不安が高くなって突然大声を出してしまうことがあります。周りの人には、「どうしてそんなに不安になるのか分からないので、何をしてあげたらよいか分からない」と言われてしまいます。

でも、よく慣れた場所では誰よりも一生懸命、活動に取り組むことができます。

《アスペルガー症候群の例》

他の人と話している時に自分のことばかり話してしまったり、相手の人にはっきりと「もう終わりにしてください」と言われないと、止まらないことがよくあります。周りの人には、「相手の気持ちがわからない、自分勝手にわがままな子」と言われてしまいます。

でも、大好きな電車のことになると、博士と言われるぐらい専門家顔負けの知識を持っていて、お友達に感心されます。

◎ ※発達障害情報・支援センター

《学習障害(LD)の例》

会議で大事なことを忘れまいとメモをとるのだけれど、本当は書くことが苦手なので、書くことに集中しようと気を取られて、かえって会議の内容が分からなくなることがあります。

後で会議の内容を周りの人に聞くので、頑張っているのに周りの人には、「もっと要領良く、メモを取ればいいのに」と言われてしまいます。

※発達障害情報・支援センター

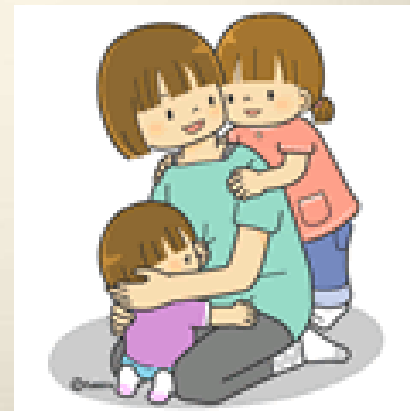
《注意欠陥多動性障害(ADHD)の例》

大切な仕事の予定をよく忘れたり、大切な書類を置き忘れたりしてしまいます。周りの人にはあきれられ、「何回言っても忘れてしまう人」と言われてしまいます。

でも、気配り名人で、困っている人がいれば誰よりも早く気づいて手助けすることができます。

※発達障害情報・支援センター

お子さんへの対応



子どもへの対応

ポイントは3つ！

- ①肯定的な声掛け、対応をしていくこと
- ②出来ることをひとつずつ、着実に！
- ③出来たことを褒める！

→発達にでこぼこがあったり、発達がゆっくりなお子さんだけではなく、どんなタイプの子にも有効な手段！

①肯定的な声掛け、対応をしていくこと

〇〇してはだめ！

△△したら怒るよ！

ちゃんとしなさい！

早くしなさい！

・・・伝わっているかな？



①肯定的な声掛け、対応をしていくこと

〇〇しよう

△△したら□□しよう

〇〇までにしよう

→具体的に、どうしたらいいのか伝えていくこと！



②出来ることをひとつずつ、着実に！

取り組んでいる活動や遊びは、いまの発達段階に合っているかな？

少し頑張ればできる目標を立てて、

“頑張ったらできた！”

と感_じる_ことが_でき_る

これがとても大切です！

そのためにも

- ・ 今の自分を知ること
- ・ 今出来ること、難しいことを
周りの大人も理解することが大切です。

③出来たことを褒める！

幼児期、学童期は心の栄養をいっぱいにして、それ以降の荒波？に対向できるようにするための準備期間

→ “自分ならできる、頑張れる”
このように思えることが大切！

今の時期に自己肯定感を育てる

規制される経験、叱られる経験、“ダメ”と言われる経験が多いと、“自分が自分でいい”という感覚である

自己肯定感

が低くなり、活動への意欲、参加度にも影響を及ぼす

⇒ 自己肯定感は将来の自信にもつながる大切な感覚

ケース1 声掛けで振る舞いが変わる

Aくんは落ち着きがなく、学校でも、家庭でもいつもいつも叱られています。

“ちゃんとしなさい”

“しっかりしなさい”

“空気を読みなさい” と

叱責され、自信を無くしていました。

Aくんの本音

“どうして僕はいつも叱られるんだろう”

“自分なりにやっているのに、何が悪いの？”

→どのように振る舞えばいいのかわからないし、
頑張っているのに怒られて... どうせ僕なんか...

どうせ
僕なんか...



どのような対応をする？

いつも頑張っているAくん

まずは、出来たところ、いいところを見つけてほめましょう。

決して、出来たことを当たり前と思わずに、よかったところ、出来たところを具体的に褒めてあげましょう。

- ・じっくりと子どもと向き合い、関係性を築いていくこと

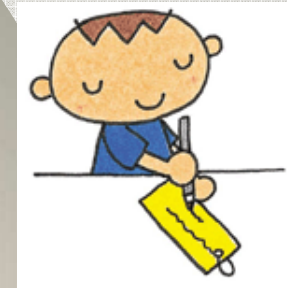
- ・子どものことば、気持ち、行動を受け止めること。そして、それらを言葉にしてあげること。

- ・毎日、続けることが大切。シンプルだからこそ、やり続けること。

対応で大切なツボ

- ・ テクニク（関わる技術）より、関係性
 - ・ 子どもの変化を敏感に察知し、柔軟に対応
-
- ・ 子どもはすぐには変わらない
→時間をかけて対応していく
-
- “対応してる”
- 子どもに響いているかな？

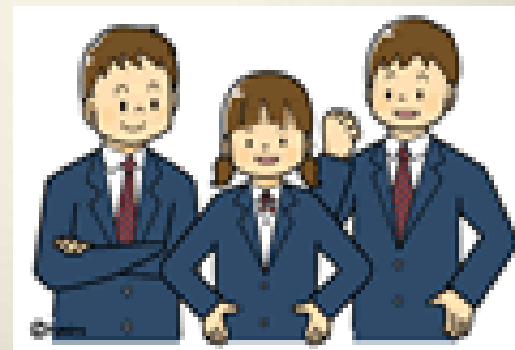
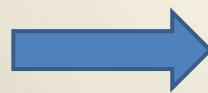
子どもの10年後・・・



- ◎ ことばでのやりとりを楽しめる子は、人との関係性のなかで自己発揮できるようになります。
- ◎ 一方的に叱られた経験が多い子は、何をするにも自信がなく、委縮してしまいます。
- ◎ 自分のことを表現できることばを持っている子は、自分の感情や行動のコントロールが上手になります。

つまり・・・

- 今の対応がその子の５年後、１０年後の
つながっていることを意識していきたい！



発達が 気になる子の ための 自立・就労 トレーニング

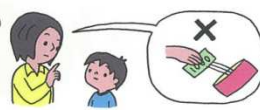
家庭・学校・社会生活での支援と訓練

田中和代 [編著]

(B型作業所さくらハウス施設長・臨床心理士)

野村昌宏 [著]

(福井県発達障害児者支援センター相談員・社会福祉士)



合同出版

将来につながる支援を

◎ 社会に出ても困らない子育て法

→社会で自立するため、少しでも快適に生きられるように

- ・子どもをそのまま受容する
- ・否定的な言葉を使わない

※発達が気になる子の自立・就労トレーニングより

- ◎ こころの支援、生活する支援、どちらも大切



- ◎ 子どもの育ちを
「待つ」「見きわめる」「急がない」
「急がせない」

お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター
『幼児教育ハンドブック』より

対応のヒント

- ◎ 発達障害情報・支援センター
- ◎ 発達障害教育情報センター



子育て プリンシプル

奥田健次

一ツ橋書店

目先の損得勘定に気を取られるキリギリスのような親。

将来のことを考えず、今のムードに流されて揺れるクラゲのような親。

そんな大人の子育ては、かなりキケンなものなのです。

子どもに“苦労”をさせられますか？

子どもに“がまん”をさせられますか？

子どもの“苦労”や“がまん”を、しっかり激励してあげていますか？

ブレない土台や羅針盤。それが、プリンシプル[=原理・原則]。

プリンシプルを求めることは、親と子の成長に欠かせません。

プリンシプルのある子育てに全力で取り組みましょう。

※本書には、親にとってシンドイ姿勢を求める提言など、カゲキな発言が含まれています。

“子育てブラックジャック”

待望の初単著！！

プリンシプルの直伝、ついに解禁！

こころに残ることば

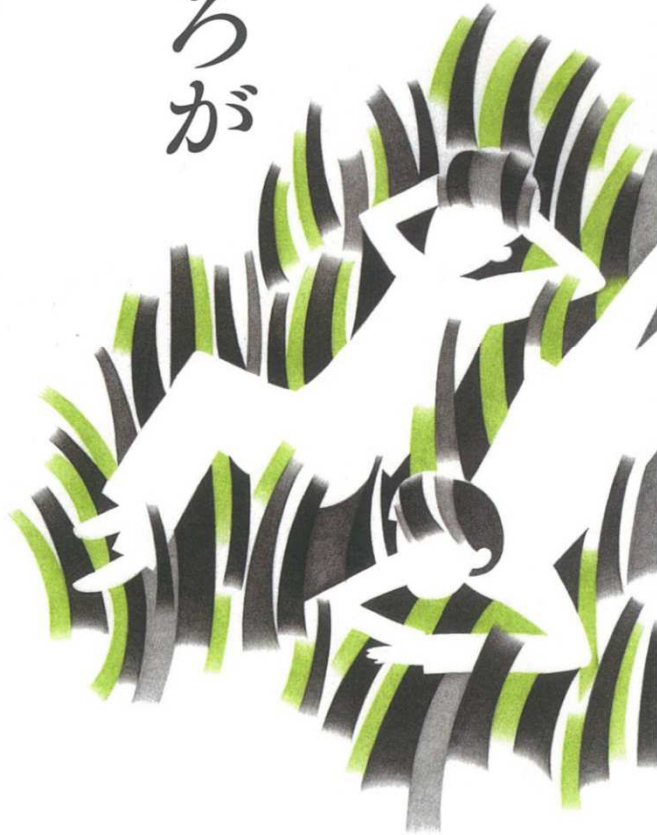
- ◎ “ゆるぎない土台”
- ◎ 子どもに接する大人が一貫した態度で子どもに接すること。子どもに振り回されず、常に一貫して対応すること。

※子育てプリンシプルより

子安増生
仲真紀子
=編著

こころが
育つ
環境をつくる

発達心理学
からの提言



新曜社

“子育て10カ条”

- ◎ 親子の間に対等な人間関係を作ること
- ◎ 親は子どもの安全基地になること
- ◎ 子どもに『勝ち負け』の言葉を使わない
- ◎ 子どもの言葉や行動を共感的に受け止め、受け入れる
- ◎ 他者と比べず、その子自身が以前より進歩した時に承認し、褒める

※『心が育つ環境をつくる』より

- ◎ 裁判官のように禁止や命令だけではなく、『～したら』と提案の形で対案を述べる
- ◎ 教師のように完璧な・詳細な・隙のない説明や定義を述べ立てない
- ◎ 子ども自身に考える余地を残す働きかけをすること

※『心が育つ環境をつくる』より

- ◎ 親は『待つ』『見極める』『急がない』『急がせない』で子どもがつまづいたときに支え、足場をかけ、子どもが第一歩を踏み出せるように、わきから助けてあげる
- ◎ 子どもと共に暮らす幸せを味わおう

※『心が育つ環境をつくる』より

いろいろなひとに育ちを支えてもらうこと
(福祉サービスの活用について)



福祉制度の活用について

- ◎ 現在、さまざまな発達支援を提供する福祉事業所が各地域にある
- ◎ 市が運営しているもの、民間の会社が運営しているもの、社会福祉法人が運営しているものなど
- ◎ それぞれに支援の内容や人員、支援の特色がある

発達支援を実施している事業所

- ◎ 放課後等デイサービス
- ◎ 児童発達支援

→このような事業所では、発達を促す支援を行っています。

→それぞれの事業所に、それぞれの特色があります。

障害福祉サービス

- ◎ 日中一時支援
- ◎ 移動支援
- ◎ 短期入所

発達に心配のあるお子さんとその保護者の方のためにあるサービス。サービスを使うことで、家庭で担う育児・対応の軽減を図ることができます。

サービスを選択すること

- 活用できるサービスが増えることは、利用する側としてはとてもありがたいこと

選択肢が増える



どのようなサービスを利用したらいいの
かを**利用する側**が**選ぶ**ことが必要

どんなサービスが必要なのか

- ◎ お子さんにとって、家族にとって、どんなサービスが必要なのか
- ◎ どんな支援者にサポートしてもらいたいか
- ◎ 安心できるサービス、支援者は・・・

情報って大切・・・

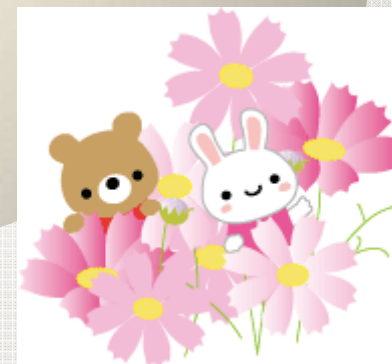
- ◎ いろいろな機関、ひととつながり、必要な情報を得られるようにしておくことはとても大切です。
- ◎ つながり上手になりましょう！

保護者同士、専門機関、医療機関、学校、
幼稚園・保育園・・・

みんな同じスピードで、支援することが大切

最後に・・・

- ◎ 日々、お子さんの対応をされている保護者の方々
- ◎ お子さんの一番の理解者
- ◎ 保護者の方とお話することで、支援者の励みになり、対応のヒントをいただくことがあります
- ◎ ぜひとも、一緒に子育てを！！



平成26年9月29日（月）

特別支援教育保護者研修会

臨床心理士から見た
お子さんの発達と親の関わりについて

ご清聴、ありがとうございました。

